

国内出荷を軸に、2期連続前期比上昇と なったグローバル出荷

；グローバル出荷指数 2016年Ⅳ期

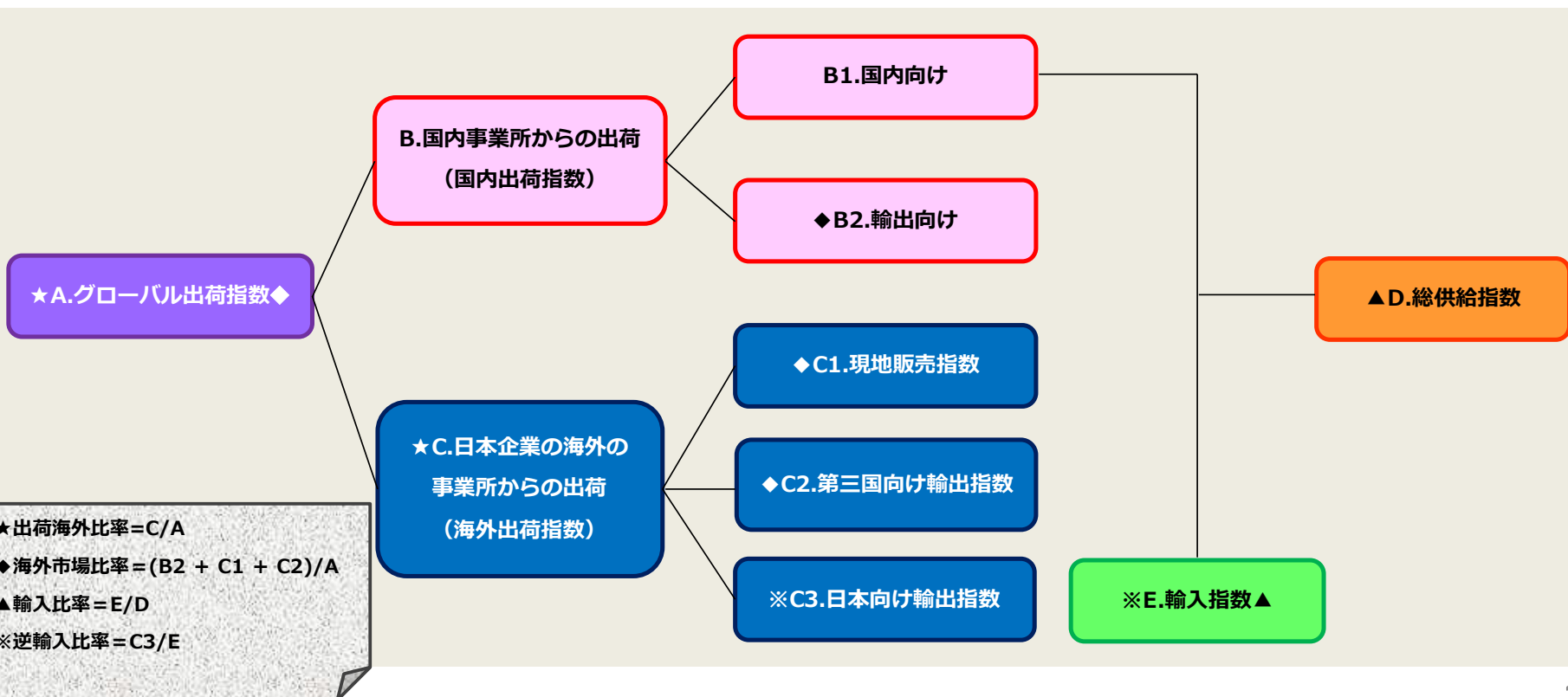
経済解析室

2017年4月



グローバル出荷指数とは？

- 製造業のグローバル展開を踏まえ、国内外の製造業の生産動向を「業種別」に一元的に捉えようとした指標。
- 製造業の動向を事業所ベースで捉えることとし、「鉱工業出荷内訳表・総供給表」と「海外現地法人四半期調査」の組合せにより、**海外生産（出荷）比率等**を算出している。



製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（総括表）

	2015年度	2016年		
		7～9月期	10～12月期	前期比
グローバル出荷指数	104.3	103.9	105.8	1.8
国内出荷指数	96.3	96.1	97.9	1.9
国内向け	95.8	95.7	97.0	1.4
輸出向け	98.7	98.4	102.3	4.0
海外出荷指数	129.6	128.4	130.7	1.8
自国向け	130.8	133.0	135.3	1.7
日本向け	121.0	109.5	118.3	8.0
第三国向け	130.2	119.9	123.5	3.0
海外出荷指数	129.6	128.4	130.7	1.8
中国(含香港)	129.4	125.0	130.4	4.3
ASEAN4	114.1	115.5	119.6	3.5
北米	159.0	158.2	155.1	▲ 2.0
それ以外の地域	116.0	113.9	117.3	3.0

注1) 各四半期の結果については季節調整済指数、2015年度の結果については原指数。

注2) 国内出荷指数は、「鉱業」を含まない「製造工業」の出荷指数。

製造業グローバル出荷指数（原指数）の推移（総括表）

	2015年度	2015年	2016年	
		10～12月期	10～12月期	前年同期比
グローバル出荷指数	104.3	106.1	107.4	1.2
国内出荷指数	96.3	97.6	99.4	1.8
国内向け	95.8	97.3	98.2	0.9
輸出向け	98.7	98.9	104.2	5.4
海外出荷指数	129.6	132.7	132.5	▲ 0.2
自国向け	130.8	137.1	136.9	▲ 0.1
日本向け	121.0	117.8	122.8	4.2
第三国向け	130.2	126.2	124.4	▲ 1.4
海外出荷指数	129.6	132.7	132.5	▲ 0.2
中国(含香港)	129.4	137.4	135.9	▲ 1.1
ASEAN4	114.1	117.3	122.4	4.3
北米	159.0	157.9	152.7	▲ 3.3
それ以外の地域	116.0	117.7	120.8	2.6

注) 国内出荷指数は、「鉱業」を含まない「製造工業」の出荷指数。

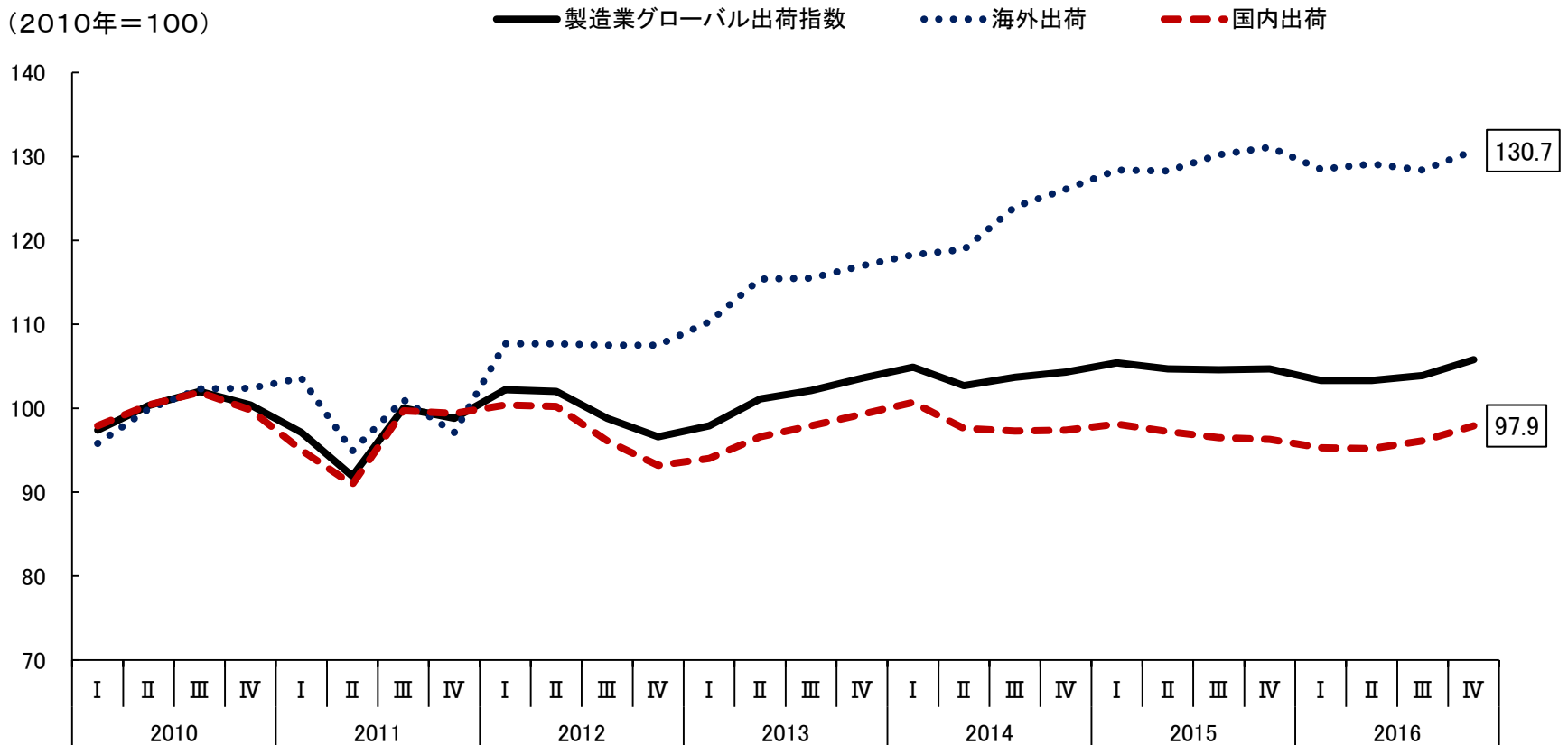
製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移

2016年Ⅳ期の製造業グローバル出荷指数（季節調整済）は105.8で、2期連続の前期比1.8%の上昇。

海外出荷指数は130.7で、2期ぶりに前期比1.8%の上昇。

国内出荷指数は97.9で、2期連続の前期比1.9%の上昇。

(2010年=100)

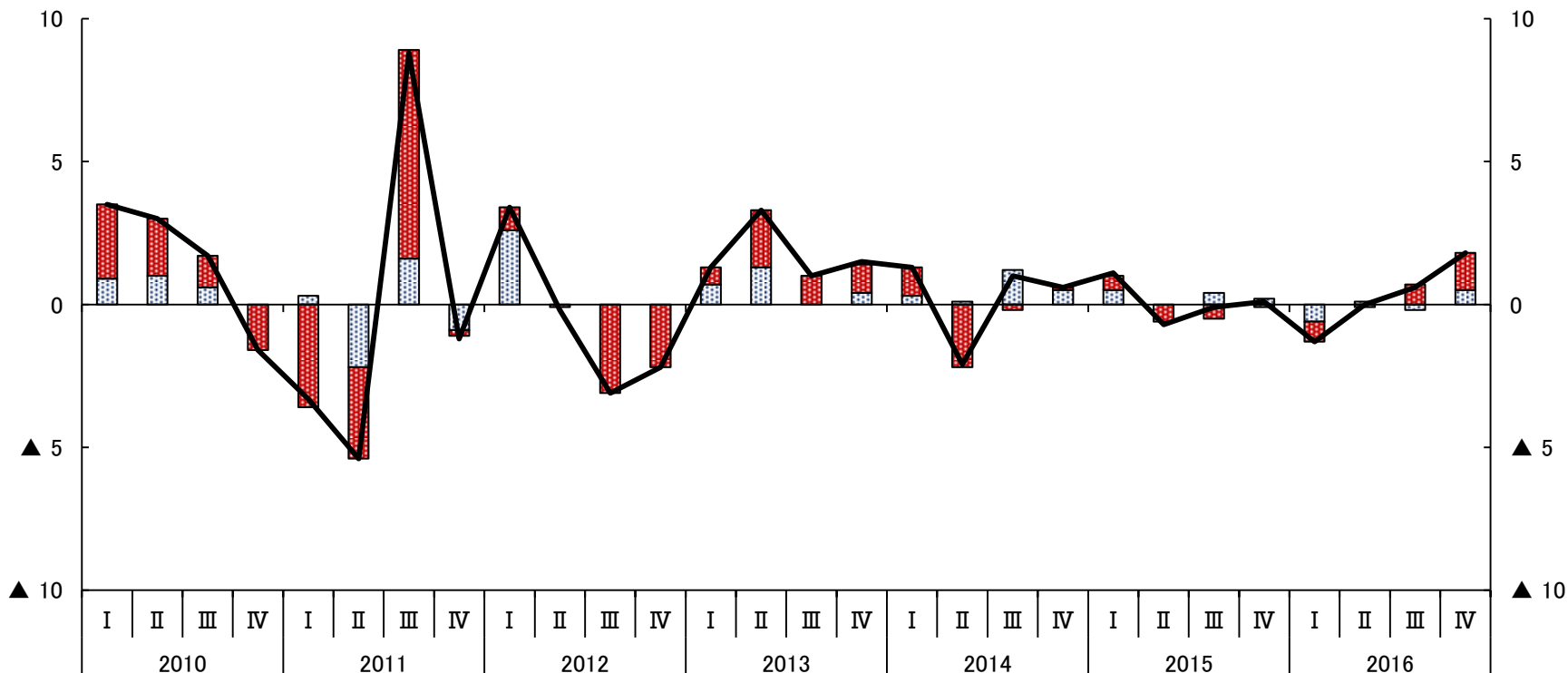


製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（前期比、内外寄与度）

グローバル出荷全体の前期比 1.8% に対し、海外出荷は 2 期ぶりに同 0.5% ポイント上昇寄与。国内出荷は 2 期連続の同 1.3% ポイント上昇寄与。グローバル出荷のけん引役は、国内出荷となっている。

■ 国内出荷 ■ 海外出荷 — 製造業グローバル出荷指数

(2010年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント)

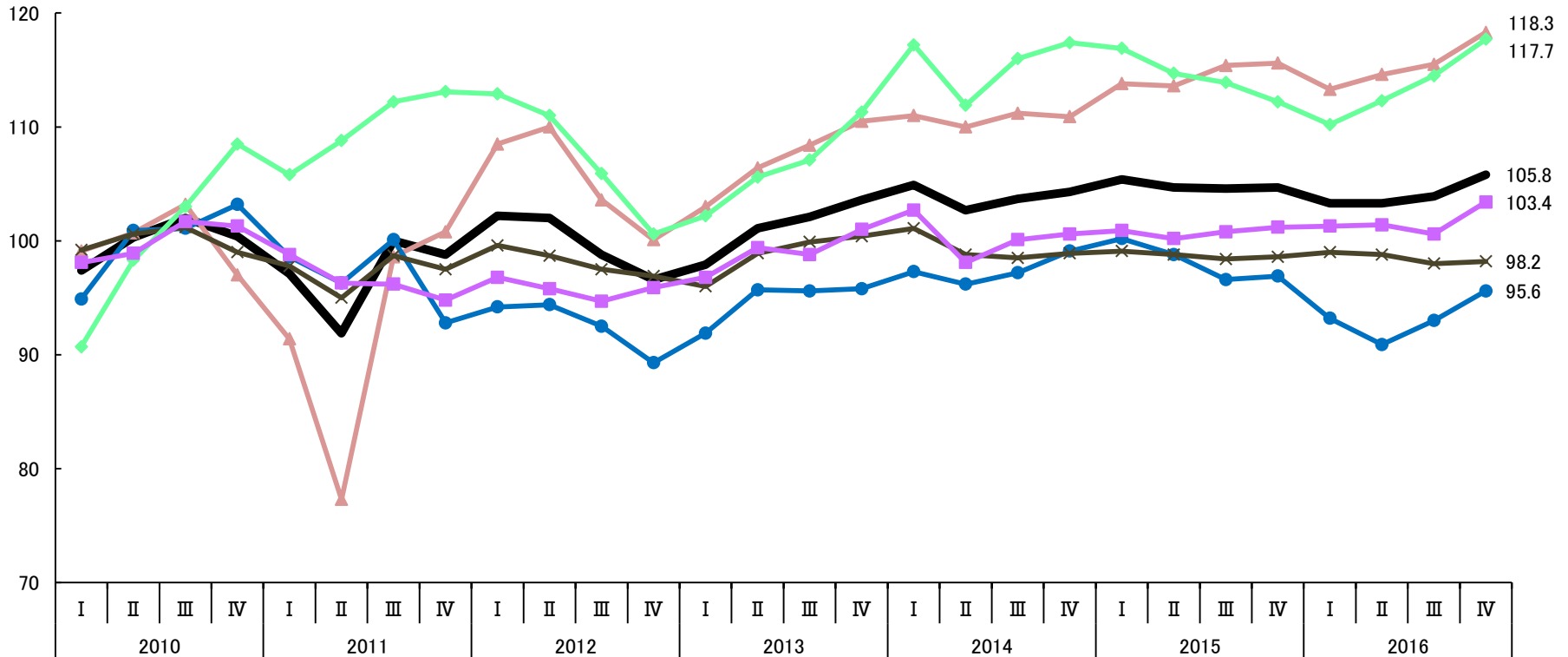


グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（業種別）

輸送機械工業（前期比2.4%上昇）、電気機械工業（同2.8%上昇）、はん用・生産用・業務用機械工業（同2.8%上昇）、化学工業（同2.8%上昇）が前期比上昇。「それ以外の業種」は、ほぼ横ばいだが、主要4業種がそろって前期比2%以上の伸びを見せた。

—●— 全業種
 —▲— 輸送機械
 —●— 電気機械
 —×— それ以外の業種計
 —◇— はん用・生産用・業務用機械
 —■— 化学

（2010年=100、季節調整済）

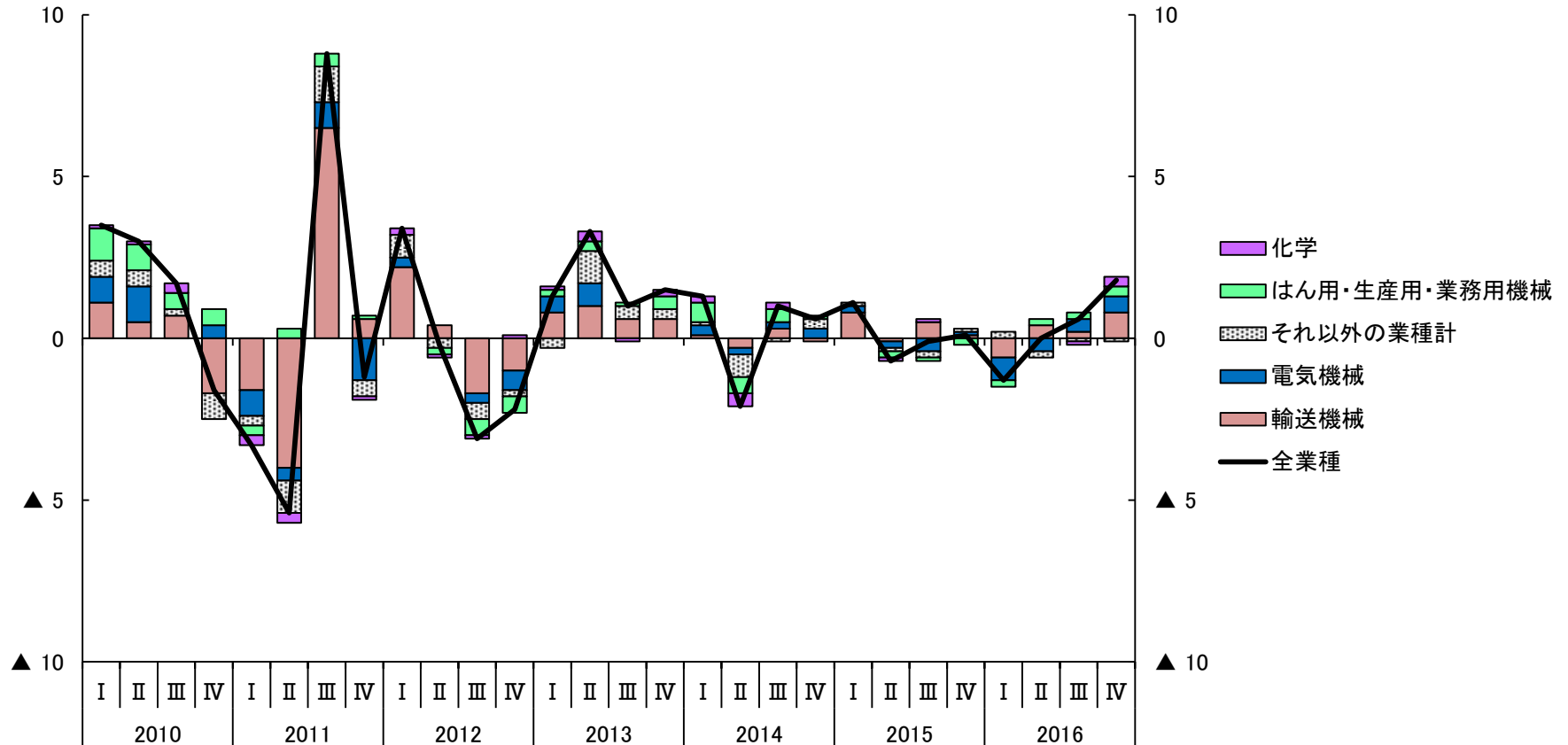


※業種の内容については、スライド3 2の「用語の説明」を参照のこと。

グローバル出荷指数の推移（前期比、業種別寄与度）

グローバル出荷全体の前期比上昇に対し、輸送機械工業の寄与が最も大きく、3期連続で前期比0.8%ポイントの上昇寄与。電気機械工業も2期連続の前期比上昇寄与。

（2010年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント）



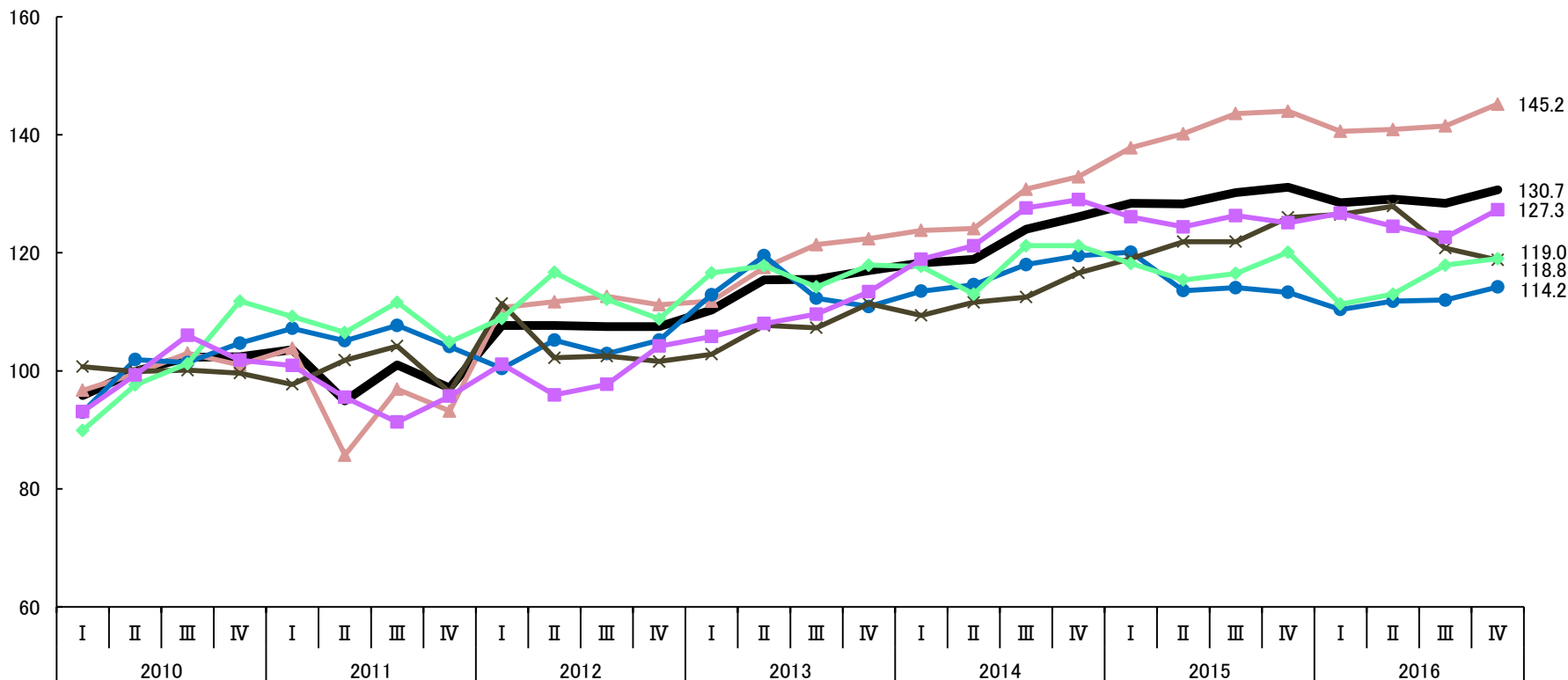
業種別・仕向け先別・地域別 海外出荷指数

業種別海外出荷指数（季節調整済）の推移

主要業種はいずれも前期比上昇。輸送機械工業（前期比2.6%上昇）、電気機械工業（同2.0%上昇）、はん用・生産用・業務用機械工業（同0.9%上昇）、化学工業（同3.8%上昇）。

—●— 全業種
 —▲— 輸送機械
 —●— 電気機械
 —×— それ以外の業種計
 —◇— はん用・生産用・業務用機械
 —■— 化学

（2010年=100、季節調整済）

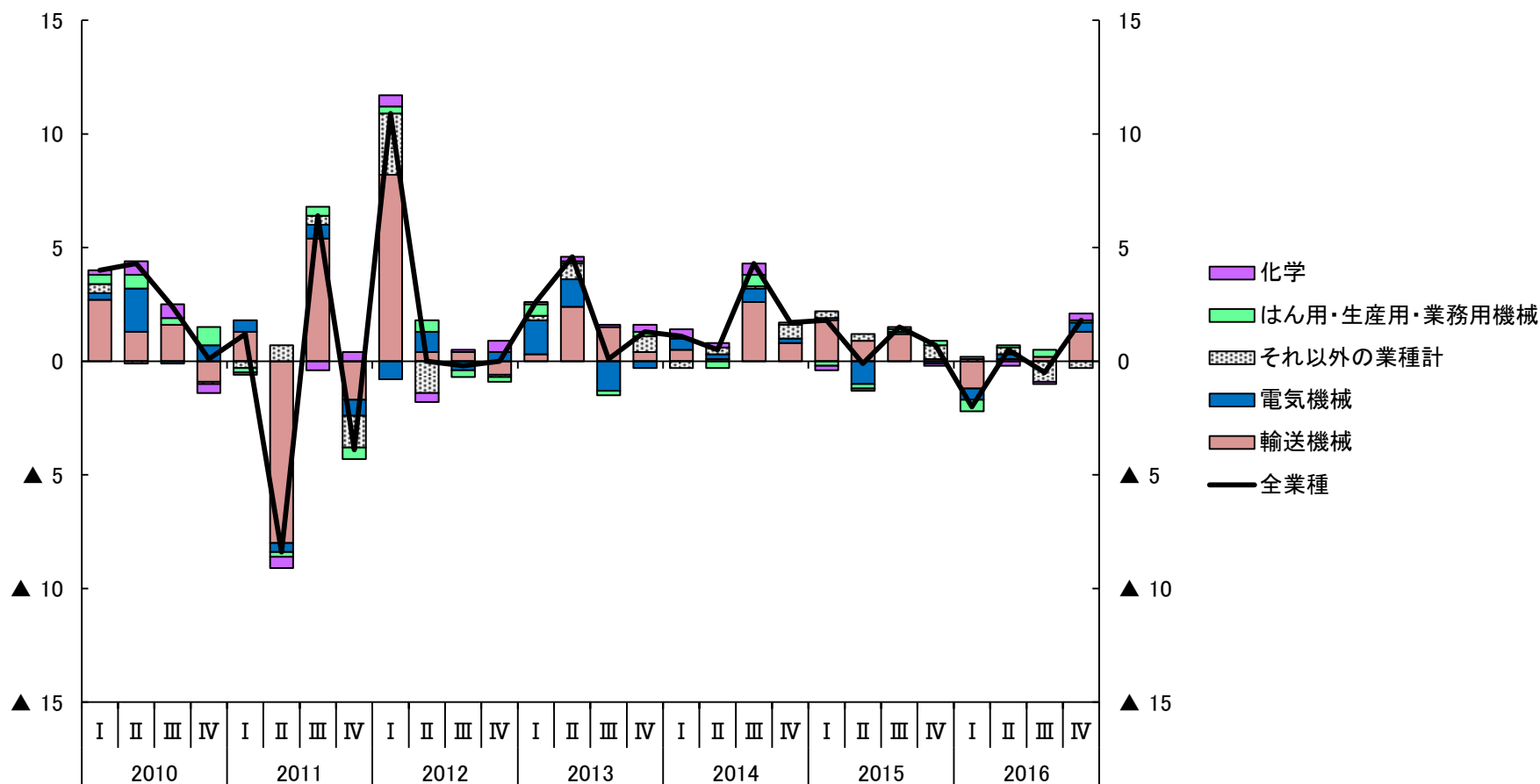


※業種の内容については、スライド3 2の「用語の説明」を参照のこと。

海外出荷指数の業種別前期比寄与度

海外出荷全体の前期比1.8%に対し、輸送機械工業が1.3%ポイントの上昇寄与。

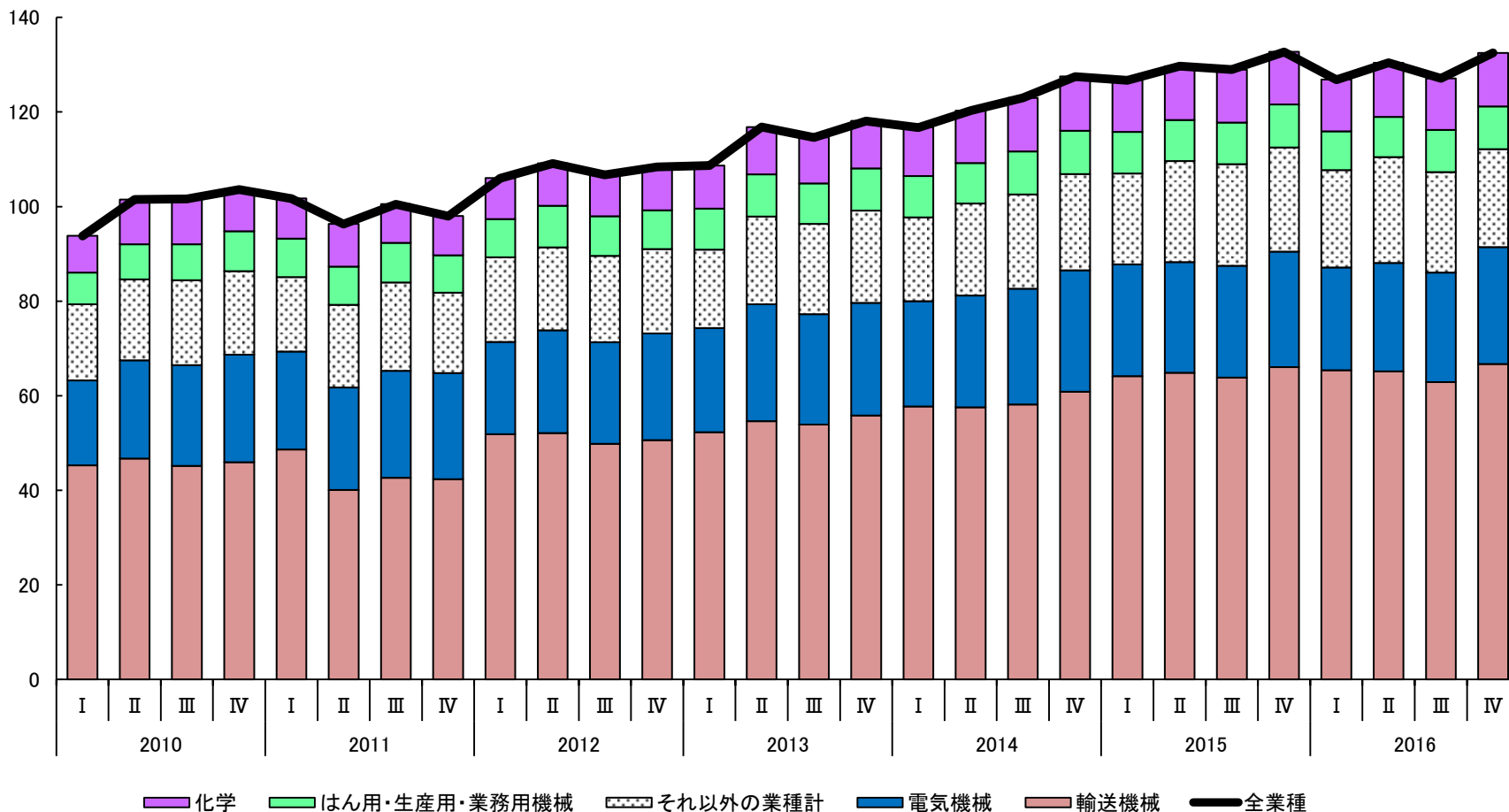
(2010年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント)



海外出荷指数（原指数）の業種別構成比

2016年Ⅳ期の海外出荷指数においては、**輸送機械**の割合は**50.3%**。
これに次ぐのが、**電気機械**の**18.7%**。

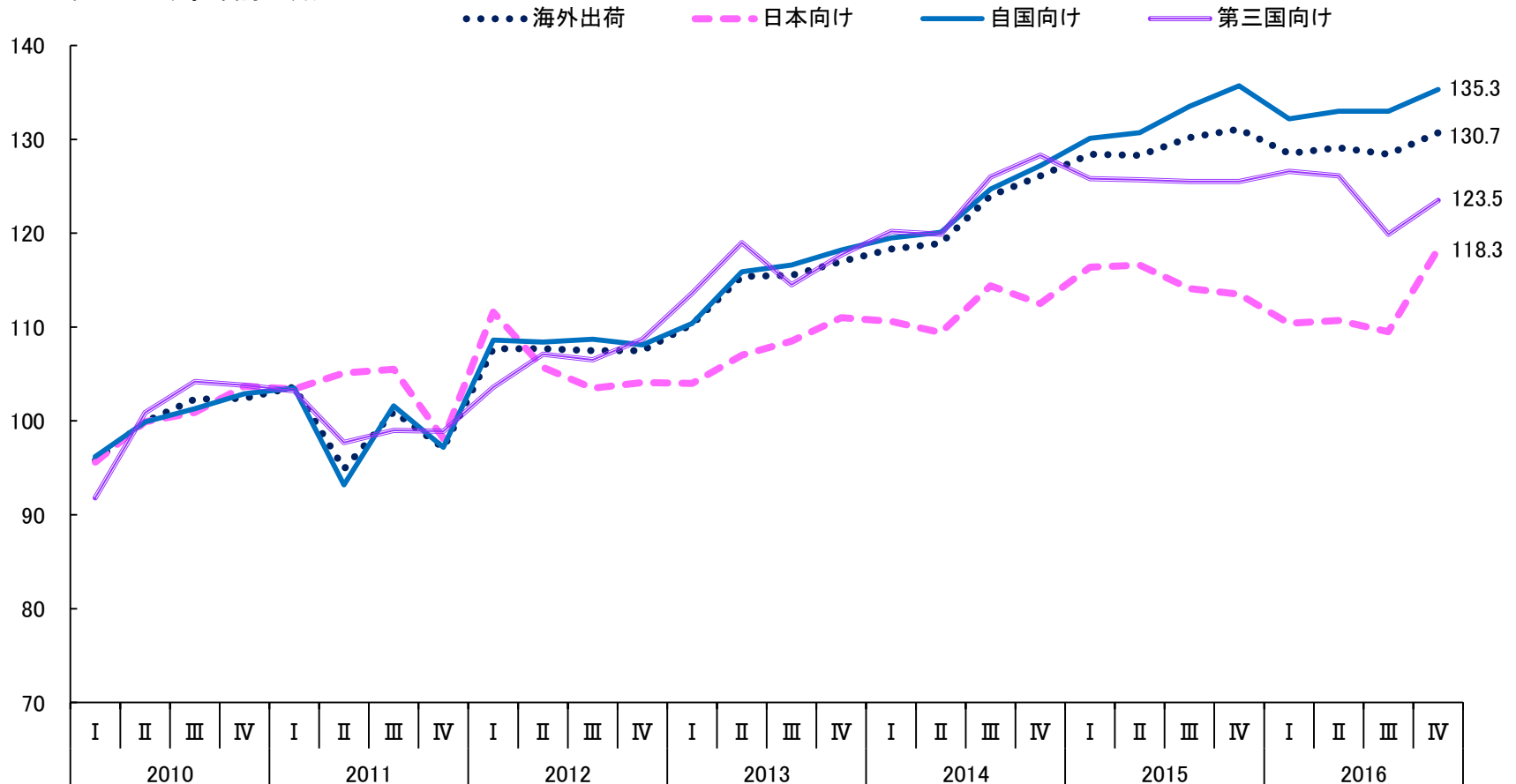
(2010年=100)



仕向け先別海外出荷指数（季節調整済）の推移

海外現地法人の出荷を仕向け先別に見てみると、「自国向け」は前期比1.7%上昇、「日本向け」は同8.0%上昇、「第三国向け」は同3.0%上昇。

(2010年=100、季節調整済)



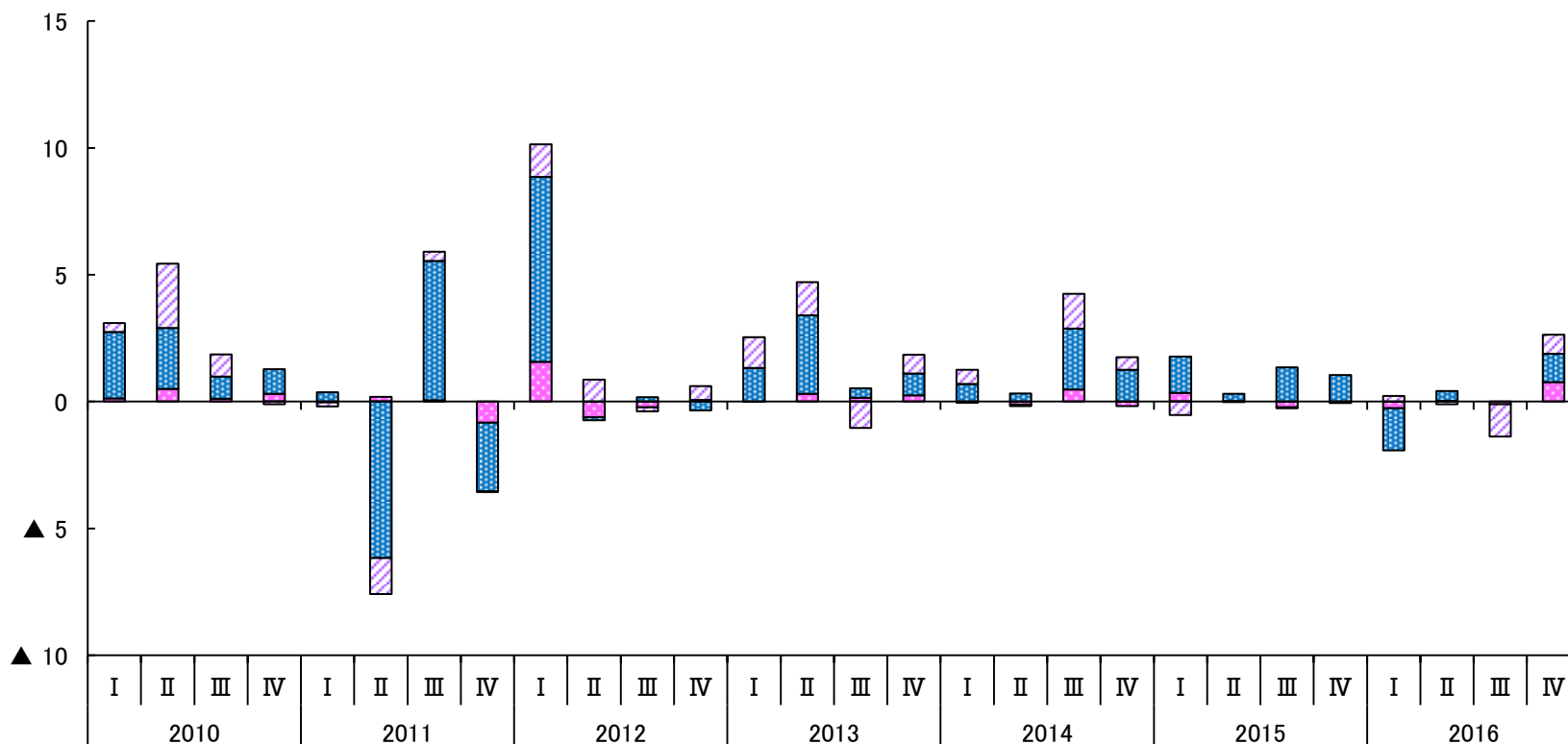
※業種の内容については、スライド3 2の「用語の説明」を参照のこと。

海外出荷指数の仕向け先別前期比寄与度

海外出荷全体の前期比1.8%に対し、「自国向け」が、前期比1.1%ポイントと最も大きな上昇寄与。また、「日本向け」が同0.8%ポイントと、ここ数年にない大きめの上昇寄与を見せた。

□ 第三国向け ■ 自国向け ■ 日本向け

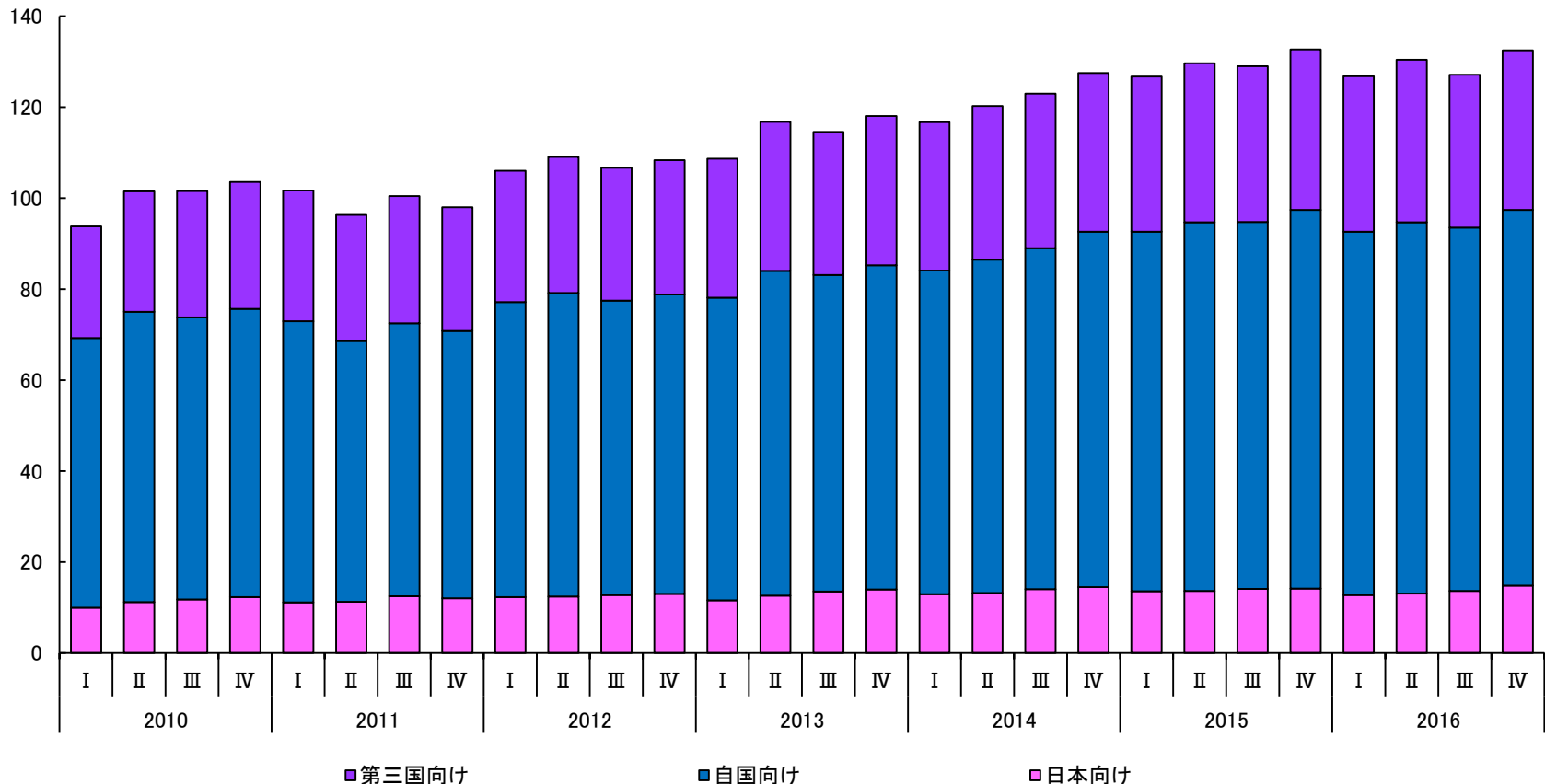
(2010年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント)



海外出荷指数（原指数）の仕向け先別構成比

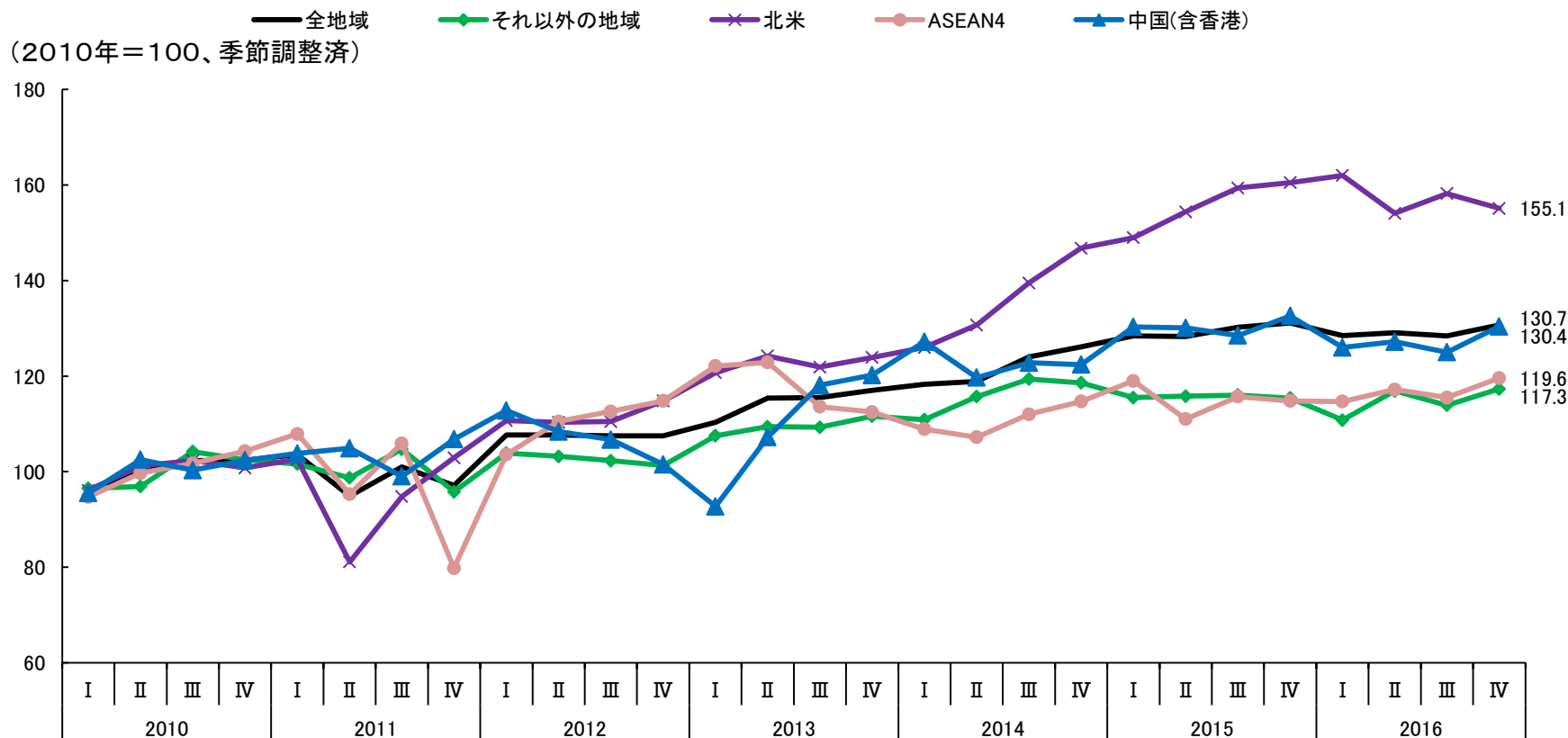
2016年Ⅳ期の海外出荷指数においては、「自国向け」の割合は62.4%。これに次ぐのが、「第三国向け」の26.5%で、「日本向け」は11.2%。

(2010年=100)



地域別海外出荷指数（季節調整済）の推移

2016年Ⅳ期の地域別海外出荷指数では、中国（前期比4.3%上昇）、ASEAN4（同3.5%上昇）、それ以外の地域（同3.0%上昇）が上昇。一方、北米だけが、同マイナス2.0%の低下。



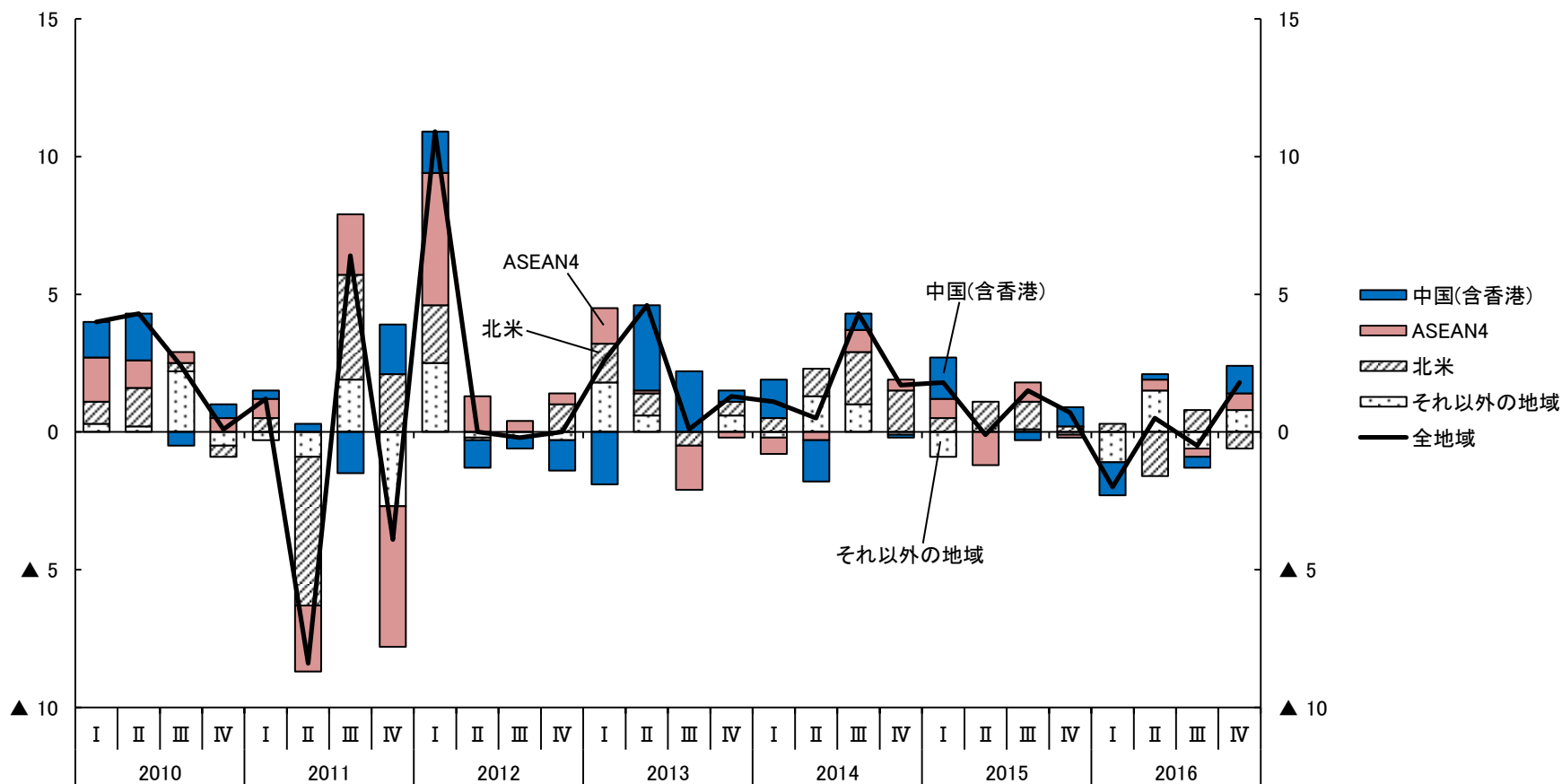
※海外現地法人四半期調査の売上高と輸入価格指数（財務省貿易統計）を用いて主要地域別のグローバル出荷指数（季節調整済）を算出。

※地域の内容については、スライド32の「用語の説明」を参照のこと。

海外出荷指数の地域別前期比寄与度

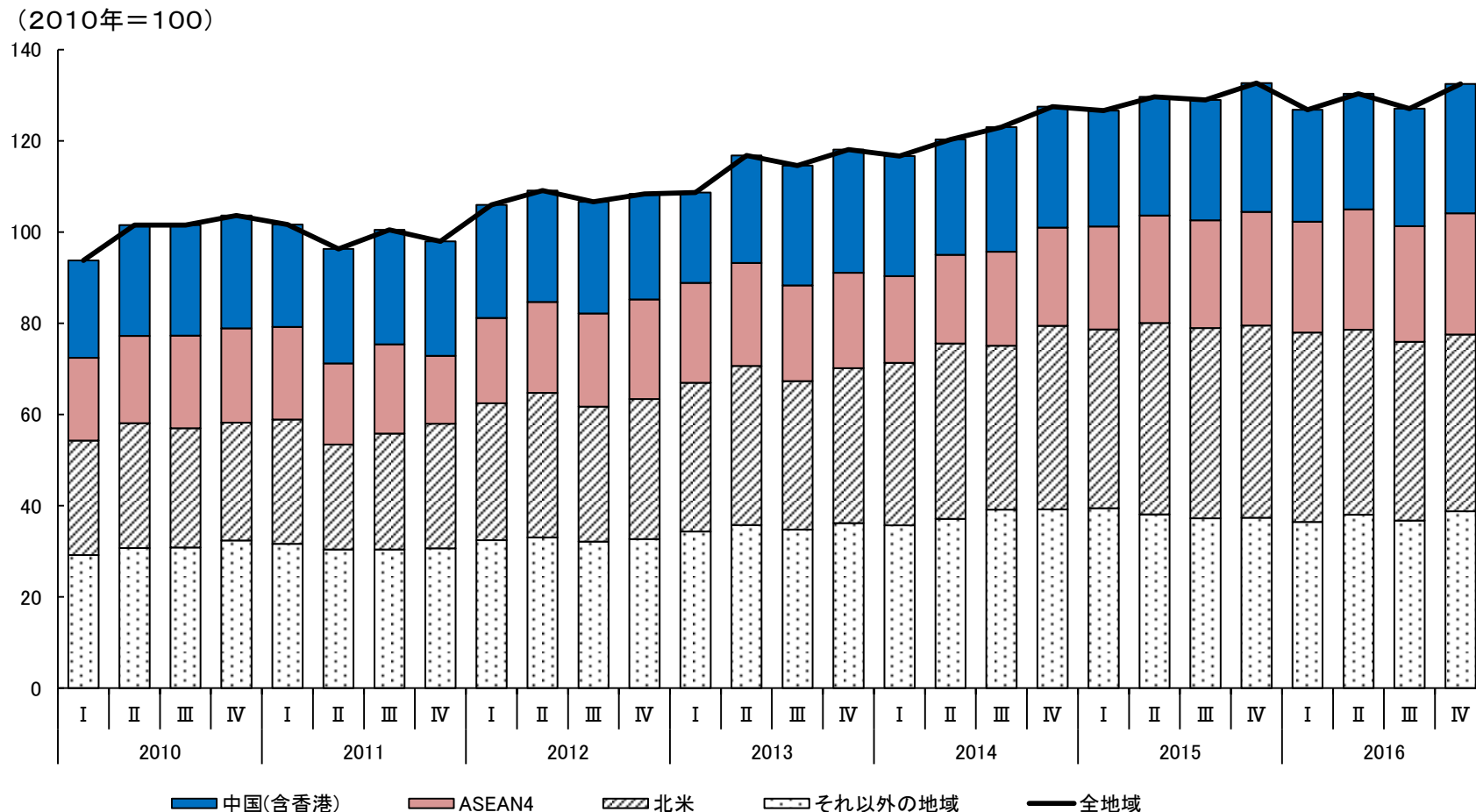
地域別海外出荷指数の前期比 1.8%上昇に対し、中国が同 1.0%ポイント、ASEANが同 0.6%ポイントとともに上昇寄与。北米は2期ぶりに前期比マイナス寄与（マイナス0.6%ポイント）。

(2010年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント)



海外出荷指数（原指数）の地域別構成比

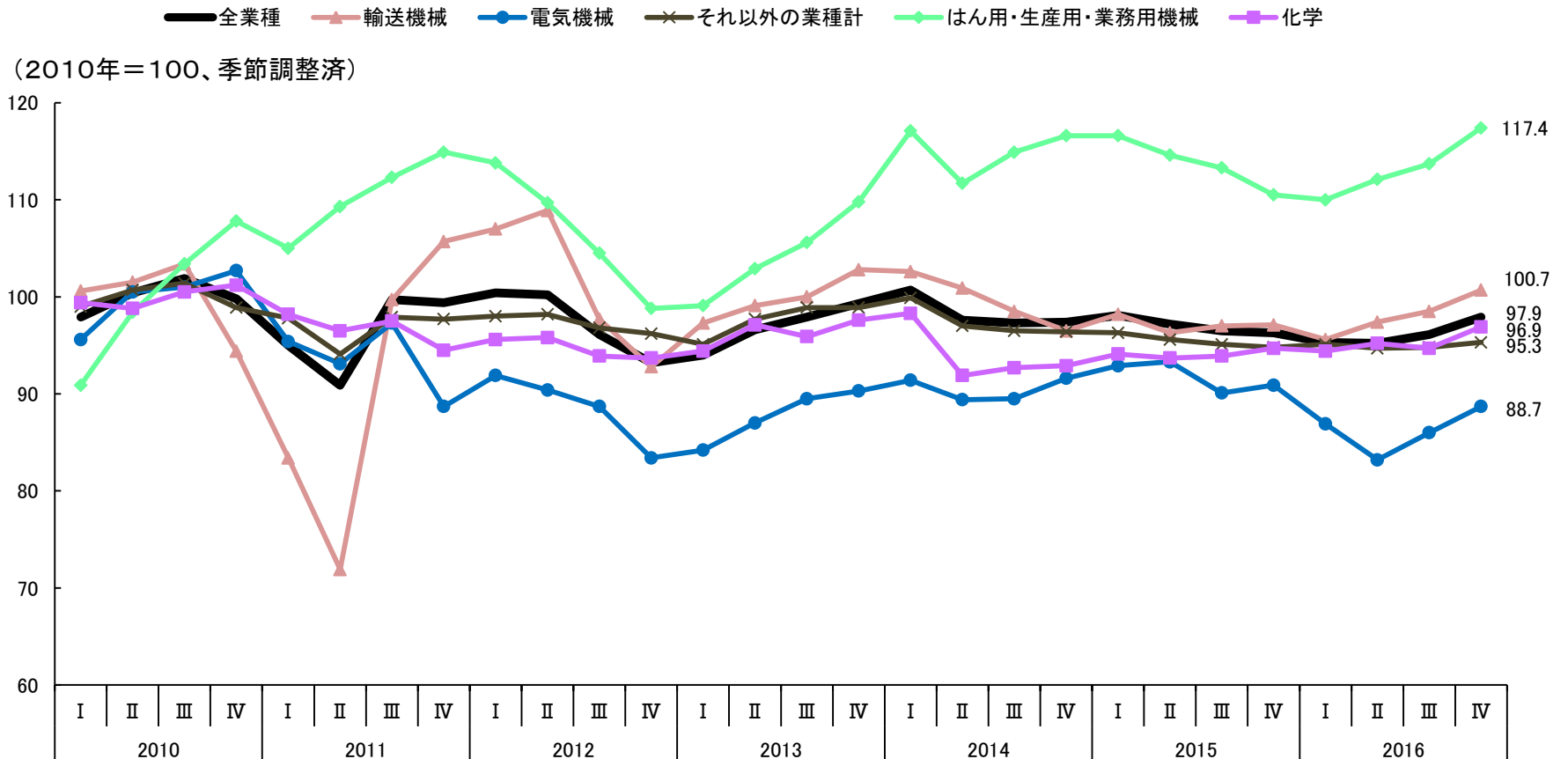
2016年Ⅳ期の地域別の内訳をみると、北米の割合が29.3%で、これに次ぐのが中国(含香港)で21.4%。



国内出荷指数

国内出荷指数（季節調整済）の推移（業種別）

主要業種はいずれも上昇。輸送機械工業（前期比2.2%上昇）、電気機械工業（同3.1%上昇）、はん用・生産用・業務用機械工業（同3.3%上昇）、化学工業（同2.3%上昇）が上昇。

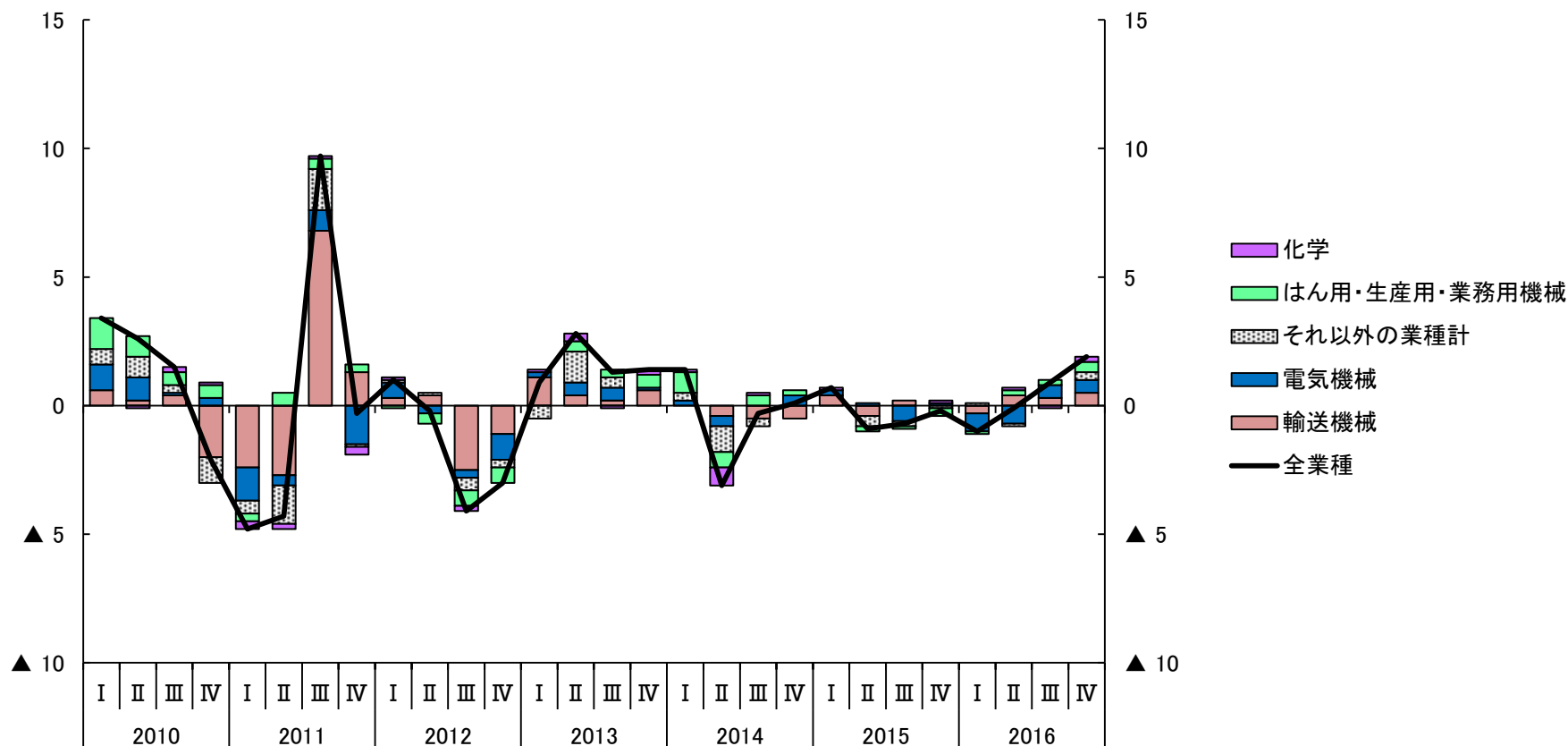


※業種の内容については、スライド3 2の「用語の説明」を参照のこと。

国内出荷指数の推移（前期比、業種別寄与度）

国内出荷全体の前期比1.9%に対し、輸送機械の前期比寄与が、3期連続で0.5%ポイントの上昇寄与。また、電気機械工業も、2期連続で0.5%ポイントの上昇寄与。

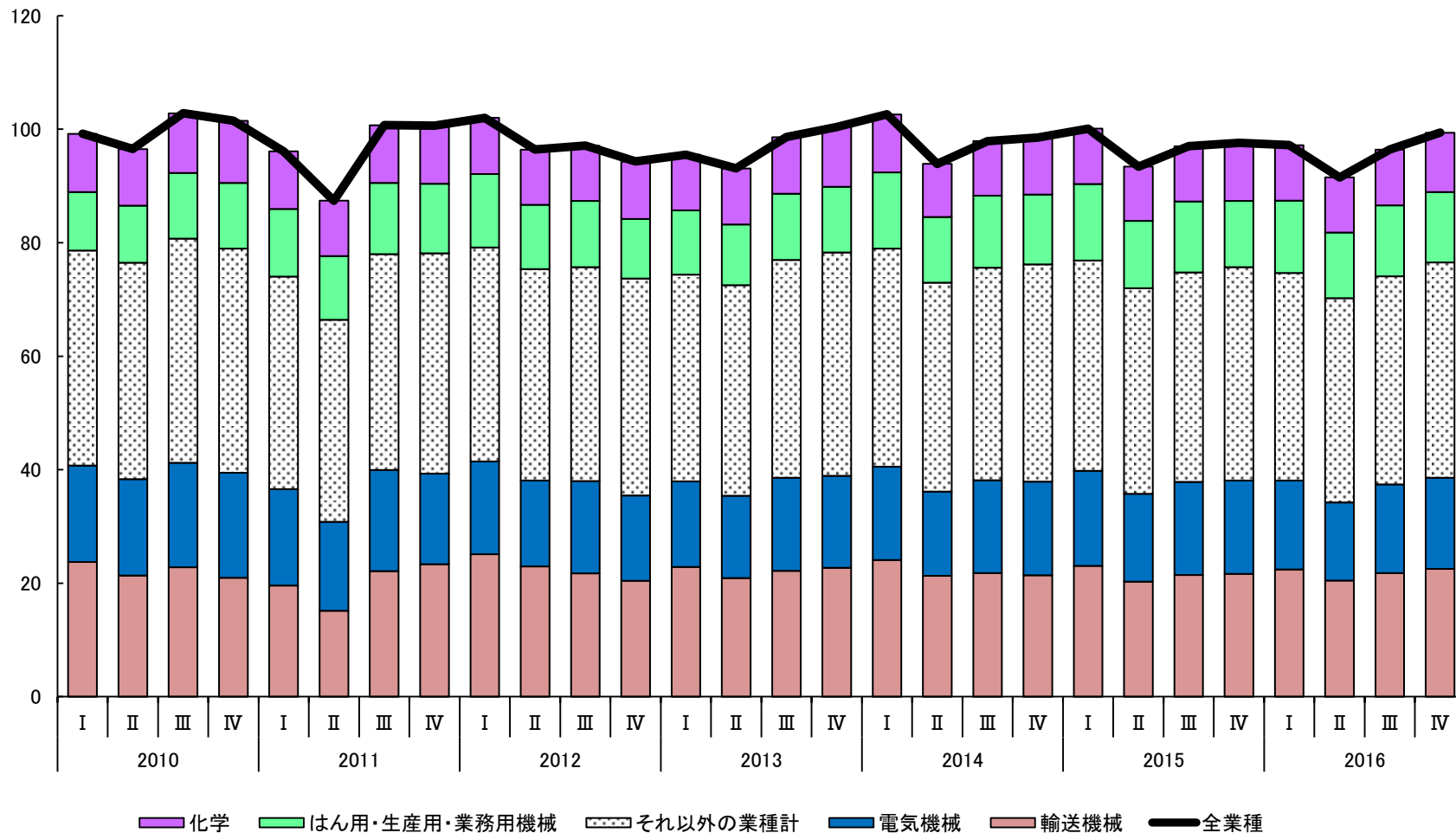
（2010年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント）



国内出荷指数（原指数）の業種別構成比

2016年Ⅳ期の国内出荷指数においては、輸送機械の割合は22.6%。
これに次ぐのが、電気機械の16.2%。

(2010年=100)



グローバル化比率

2016年Ⅳ期のグローバル化比率

2016年Ⅳ期の製造業出荷海外比率は29.6%。

2016年Ⅳ期の海外市場比率は40.9%。

2016年Ⅳ期の逆輸入比率は26.3%。

注) 製造業出荷海外比率：日本国内の鉱工業の活動と日系現地法人の活動の比率

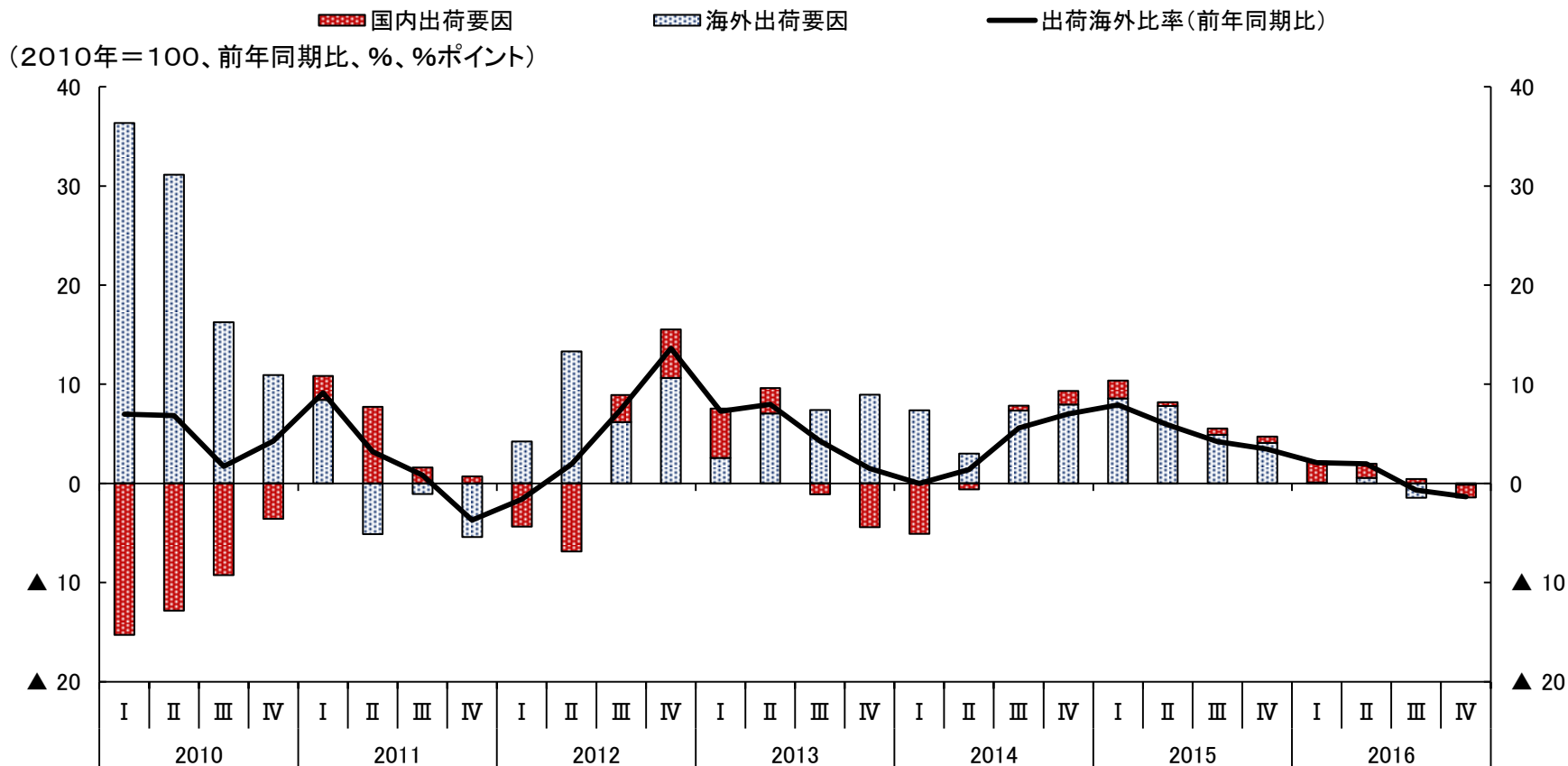
海外市場比率：グローバル出荷のうち、海外市場に出荷される割合

逆輸入比率：日本の輸入のうち、日系現地法人の日本向け輸出の割合

	製造業計	輸送機械	はん用・生産用・業務用機械	電気機械	化学	それ以外の業種計
出荷海外比率	29.6%	48.4%	18.7%	32.7%	25.5%	14.6%
海外市場比率	40.9%	59.4%	35.4%	42.0%	38.3%	24.8%
逆輸入比率	26.3%	63.0%	37.5%	51.1%	9.1%	11.9%

製造業出荷海外比率の前年同期比要因分解（季節調整前）

製造業出荷海外比率は、前年同期（30.0%）に比べて低下。この低下の
 主要因は、国内出荷が前年同期よりも増加したため。国内出荷増がこの比率
 に低下寄与するのは、9四半期ぶり。

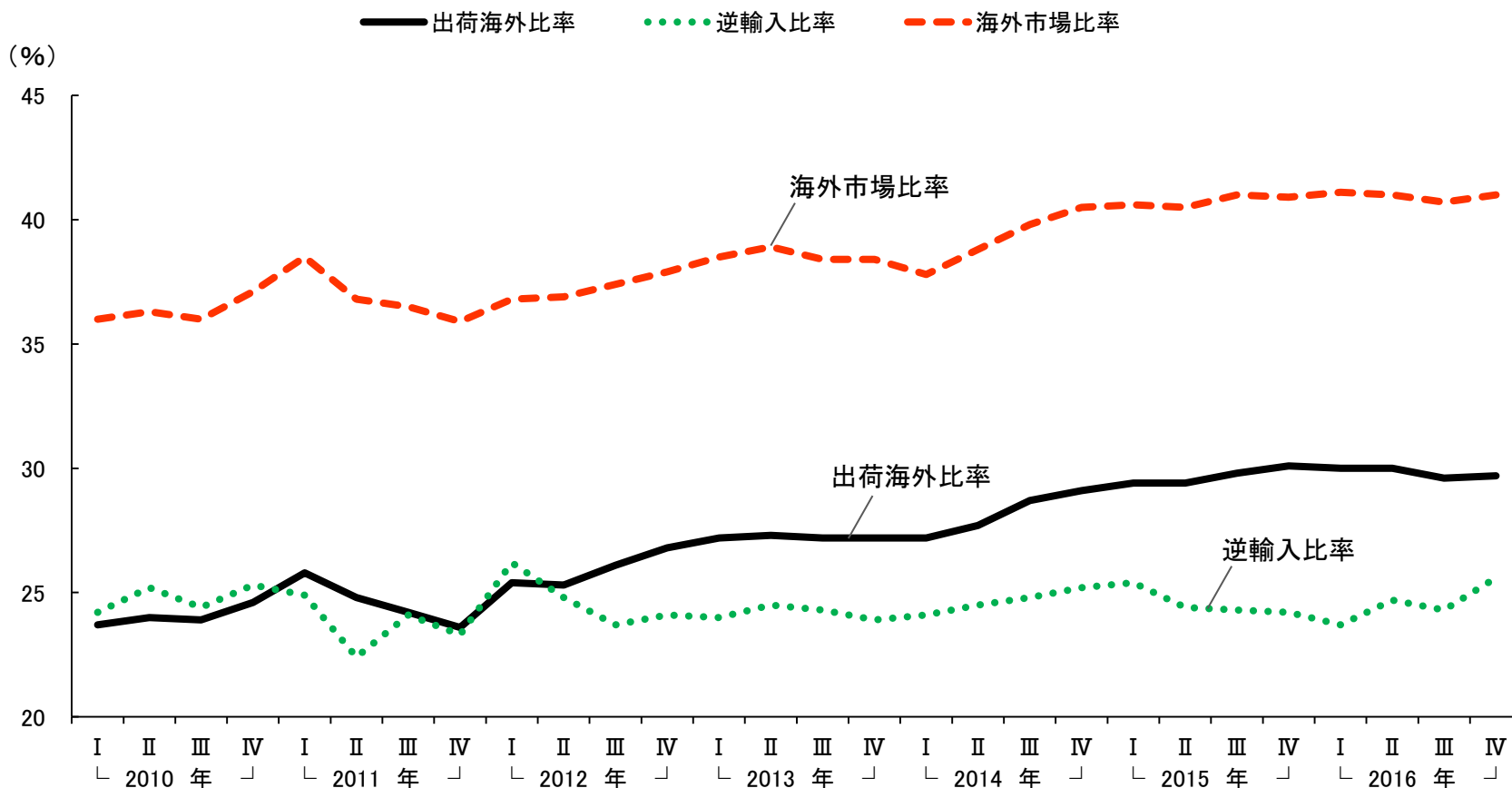


グローバル化比率の季節調整値

- 出荷海外比率等のグローバル化比率にも、季節変動が存在しているため、各期の数値の前期との単純比較は出来ない。
- そこで、グローバル化比率自体に季節調整を施す試みを実施。
- 季節調整の施された数値自体には、意味はなく、あくまで過去の各期のレベルとの比較に意味がある。
- よって、グローバル化比率の数値自体は、季節調整前の数値を参照。2016年Ⅳ期分は、スライド23の数値。

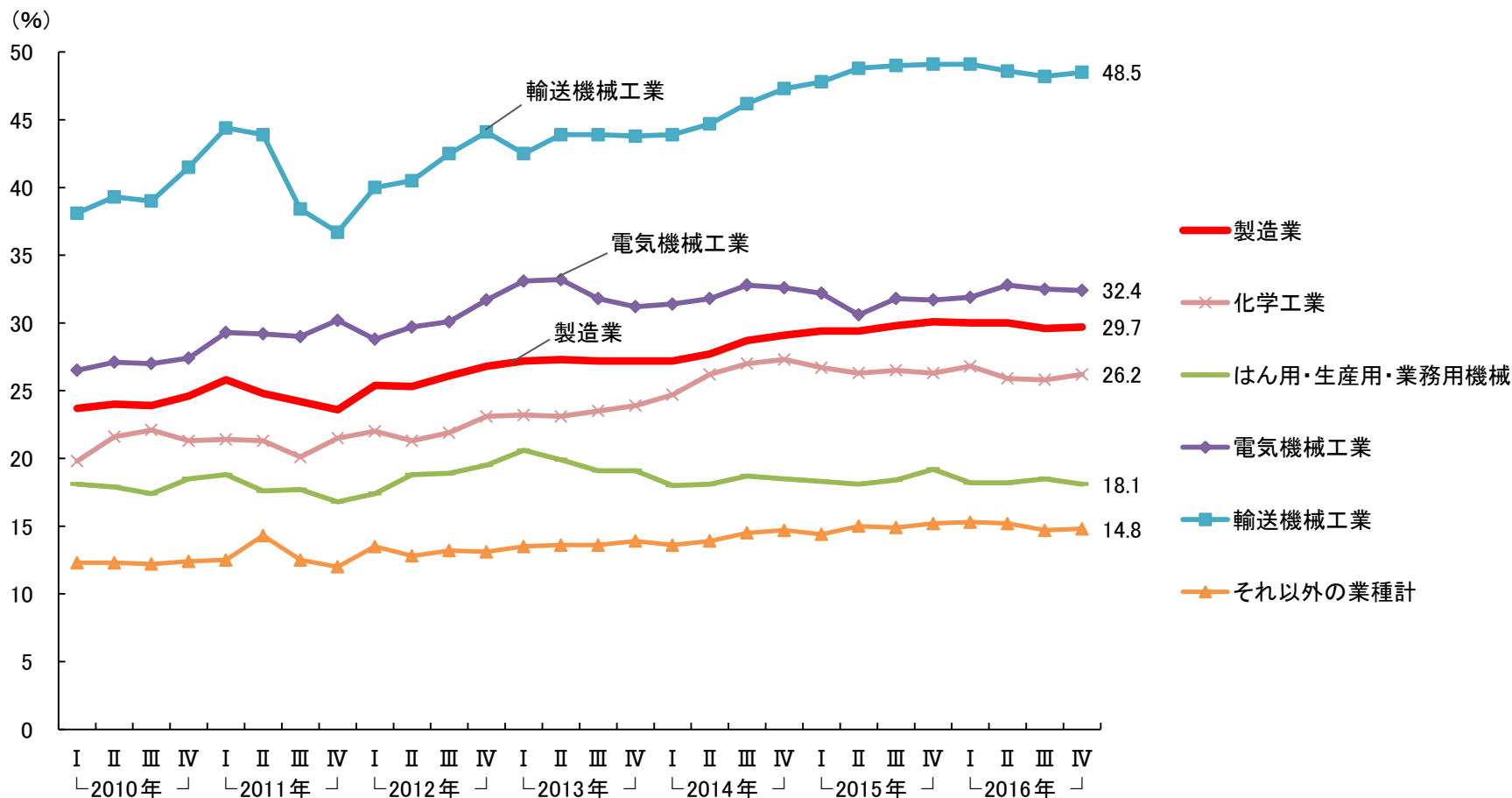
グローバル化比率（季節調整済）の推移

- 2016年Ⅳ期の製造業出荷海外比率は、前期より若干上昇。
- 2016年Ⅳ期の海外市場比率は過去最高だったⅠ期からはやや低下。
- 2016年の逆輸入比率は、ゆるやかな上昇傾向となっていた。



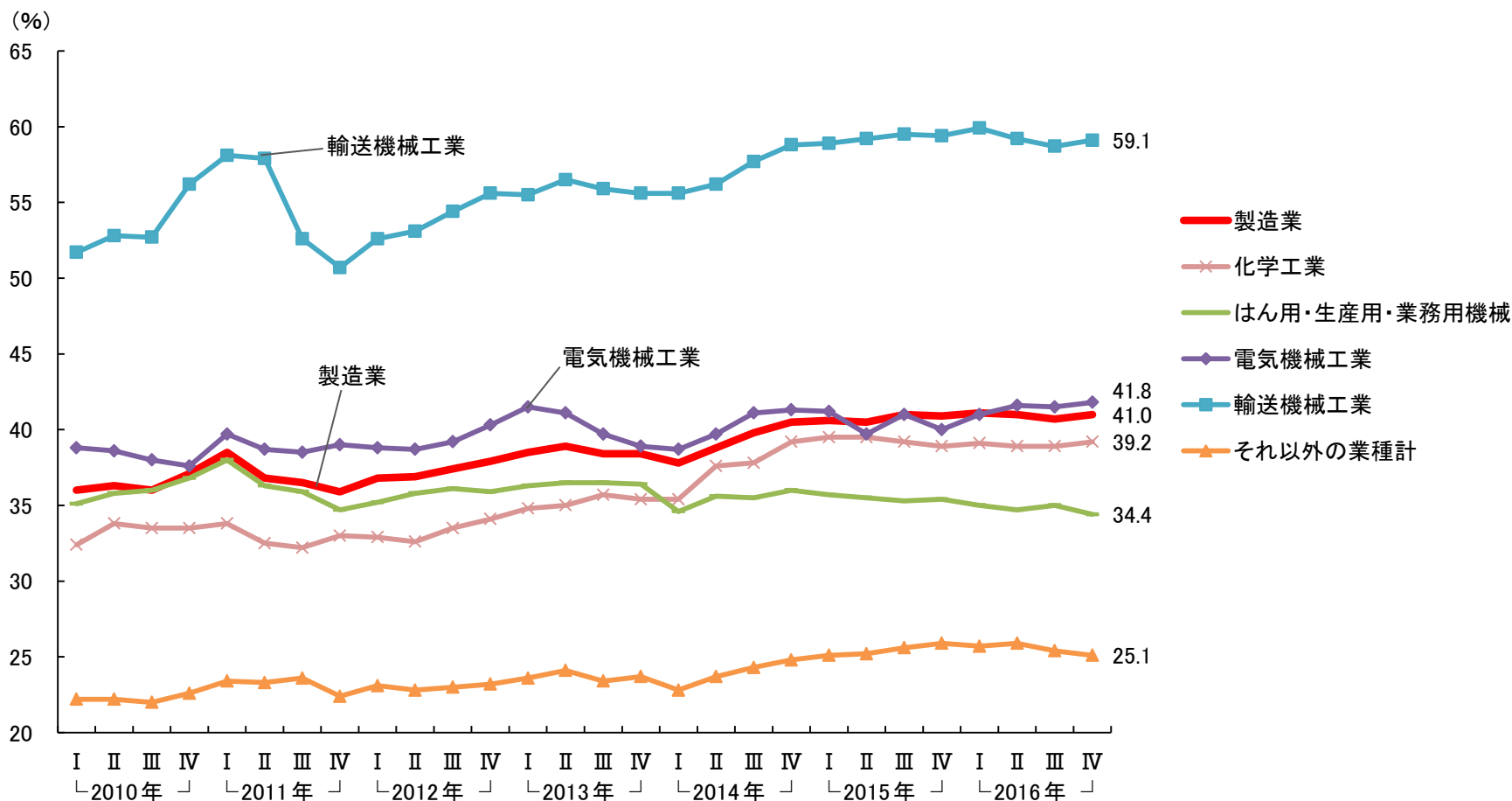
業種別製造業出荷海外比率（季節調整済）の推移

主要4業種の2016年Ⅳ期の出荷海外比率では、輸送機械工業と化学工業が上昇。



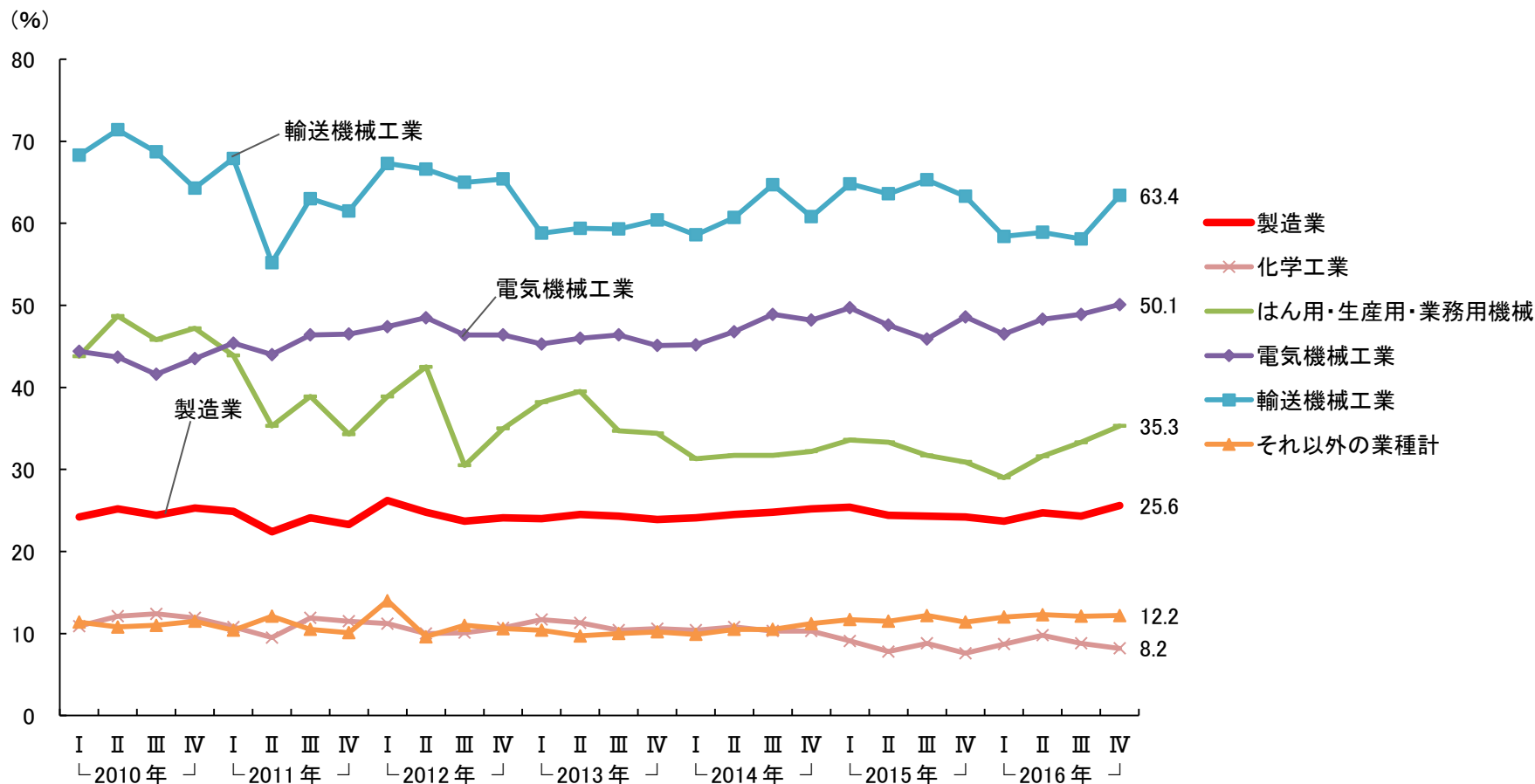
海外市場比率（季節調整済）の推移

主要4業種の2016年Ⅳ期の海外市場比率では、輸送機械工業、電気機械工業、化学工業が上昇。



逆輸入比率（季節調整済）の推移

2016年Ⅳ期の業種別の逆輸入比率（季節調整済）では、全12業種のうち8業種が前期比上昇、4業種が低下。主要4業種では、輸送機械工業、電気機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業の逆輸入比率が上昇。



2016年Ⅳ期のグローバル出荷指数のまとめ

- 2016年Ⅳ期のグローバル出荷指数は、同年前半の横ばいから、2期連続の前期比1.8%上昇。
- 海外出荷は、前期比1.8%上昇だが、2期連続で同1.9%上昇と国内出荷の上昇寄与が大きかった。
- 主要4業種は、国内/海外出荷ともに、前期比上昇となった。
- 仕向け先別海外出荷では、「自国向け」が伸びる状況に変化はないが、2016年Ⅳ期には、「日本向け」が9四半期ぶりに高い寄与を見せた。
- 地域別海外出荷では、中国、ASEANの現地法人からの出荷が全体を押し上げており、前期に「一強」だった北米からの海外出荷は一転、前期比低下となった。
- グローバル化比率では、逆輸入比率の上昇が目立っている。明らかに輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業における同比率が上昇してきている。

注意点

- 本資料の試算を行う際に、使用するデータ（海外現地法人四半期調査、鉱工業指数、日銀輸入物価指数）が速報値から確報値へ塗り替えられることなどに伴い、本資料の数字も前の四半期の数字から変わる。
- このため、過去に提供した、グローバル出荷指数の数値と、今回計算し直した数値には、違いが生じていることに留意。

用語の説明

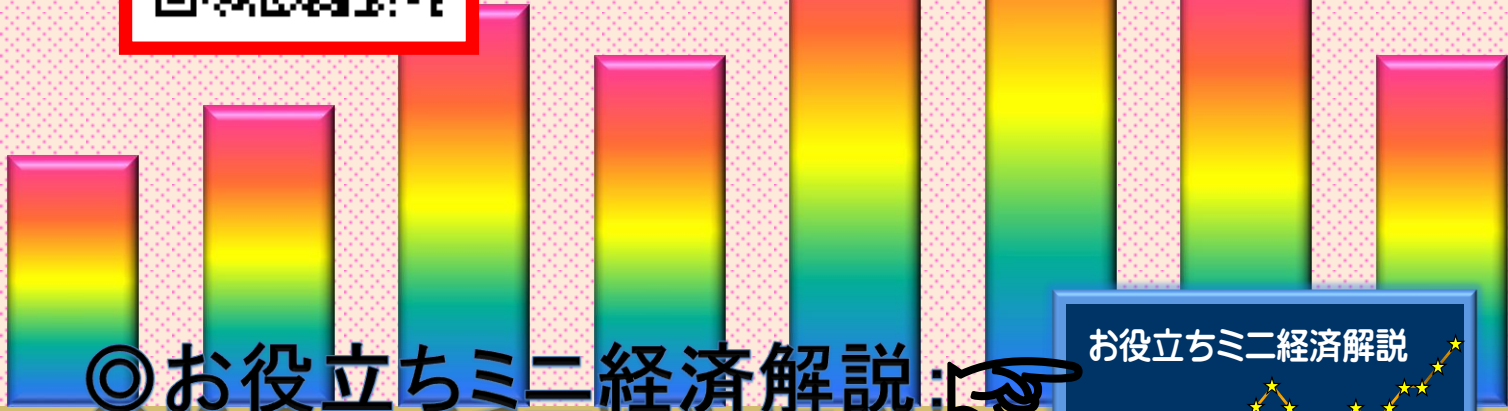
- グローバル出荷指数における電気機械工業は、鉱工業指数における、電気機械、電子部品・デバイス工業、情報通信機械を合わせたものに相当する。
- 「それ以外の業種計」とは、次の8業種を組み合わせたものである。
「食料品・たばこ」、「繊維」、「木材・パルプ・紙・紙加工品」、「窯業・土石」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属」、「その他」
- 「それ以外の地域」とは、次の4地域を組み合わせたものである。
「NIEs3」、「その他アジア」、「欧州」、「その他」

こちら是非御覧下さい！

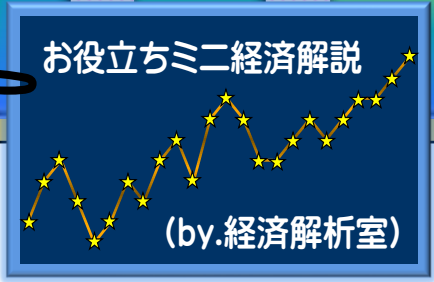
◎ ミニ経済分析：色々なテーマあります



ぜひお手持ちの電話で
QRコードを読み取って
下さい！！



◎ お役立ちミニ経済解説：
総合ポータルサイトです



お役立ちミニ経済解説、総合ポータルサイトです